

101年目からの飯田善國 — 原点の油彩画

2024年5月-10月予定



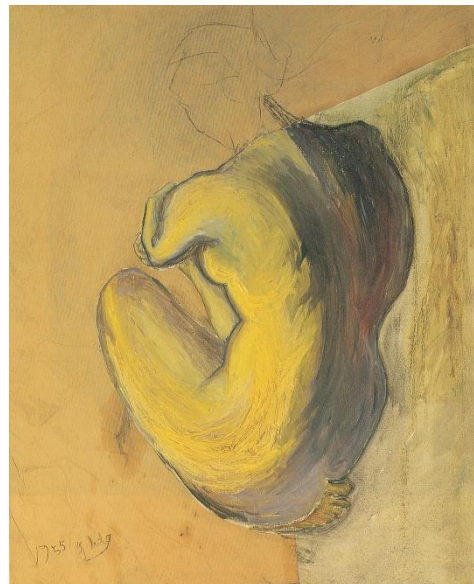
1923年生まれの飯田は、早くに父を亡くし、母とも別れて、叔父夫婦と祖母と同居しました。中学時代、学校で西洋絵画について学ぶと、油彩画を描くようになり、多感な文学少年だった飯田は、客観的にとらえた対象に時にはロマンチックな心情を投影した作品を多く描くようになりました。

その後、親族の希望で美術の学校ではなく慶應義塾大学高等部に入学しましたが、在学中に学徒出陣し、中国大陸で戦いの最前線を体験することとなりました。後に飯田は、この戦争体験を『梨花』という題名で小説化しようと試みましたが、完成には至りませんでした。1946年に帰国、復学した飯田が描く絵は次第に主観的なものへと移り変わっていきました。

1949年、念願の東京藝術大学に入学し、梅原龍三郎に師事しました。やがて、当時の若者の一人として、強烈な戦争体験を経て、戦後の自由の中にも厳しい現実を突き付けられた飯田の中では、“新しいリアリズム”の模索が大きな主題となっていきました。

祖母の死と恋人の別れが重なり、暗い作品が続いた時期もありましたが、次第にさまざまな要素は整理され、飯田は目に見える女性たちのリアルな姿だけでなく、その内面を、さらにはあたかも風景のようにその実在をとらえた作品を描くようになりました。1956年にヨーロッパに渡る直前に描かれた裸婦には、やがて描かれることになる油彩画の集大成「ウィーンの裸婦シリーズ」へとつながる、自身の絵画を構築しようとする飯田の強い意志が感じられます。

2024年5月



『背をみせて坐る裸婦』1955年



2002(平成 14)年、株式会社ハーモニック・ドライブ・システムズの敷地内に飯田作品を集めた IIDA-KAN をオープン。
2018(平成 30)年より運営組織を公益財団法人ハーモニック伊藤財団に変更。同年、同敷地内にある槇文彦氏設計の三棟の建築群「TRIAD」とあわせ長野県から博物館法の登録を受ける。

TRIAD IIDA-KAN

- 開館時：午前10時—午後4時
- 休館日：無休（臨時休館有）
- 入館料：無料

公益財団法人ハーモニック伊藤財団 TRIAD IIDA-KAN

〒399-8305 長野県安曇野市穂高 1856-1

TEL 0263-83-6800(代)

[https:// www.harmonicito-f.or.jp/](https://www.harmonicito-f.or.jp/)



公益財団法人 ハーモニック伊藤財団

IIDA 101

飯田善國の人と作品を次の100年に伝える
オープン・プロジェクトに参加しています



当美術館は安曇野アートラインに参加しています

20240516